

令和6年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会 議事録

審議会等名 令和6年度 第1回下野市小中一貫教育推進協議会
日 時 令和6年7月24日（水）午後2時～午後4時30分
会 場 下野市役所 教育委員会室
出席者 海老原忠 委員、星野良子 委員、齋藤佳代子 委員、菊地高夫 委員、
新井聡 委員、齋藤仁志 委員、真分喜治 委員、須藤勇樹 委員、
川井信一 委員、大塚剛志 委員、伊沢幸子 委員、野口恵美 委員
小野瀬善行 委員、仁平幸男 委員、大塩宗里 委員
【欠席委員】真分喜治 委員、大塚剛志 委員
市側出席者 石崎雅也 教育長
(事務局) 石島直 学校教育課長、土田礼巳 同課課長補佐
水本百合子 同課指導主事
公開・非公開別 (公開) ・ 一部公開 ・ 非公開)
傍 聴 人 0人
議事録(概要) 作成年月日 令和6年11月5日

1. 開会（石島課長）

2 委嘱状交付

3 教育長あいさつ

4 委員紹介（自己紹介）

5 会長、副会長選出

会長あいさつ

（小野瀬会長） ただいま会長を拝命いたしました、宇都宮大学の小野瀬と申します。改めまして、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単な自己紹介と、今年度会長になるに当たり、一言お話をと思っています。

先程、石崎教育長からご紹介がありましたけれども、私は平成30年度の協議会が開始になる頃から携わらせていただいております。

皆様のご協力を賜りながら会の方を進めてまいりたいと思いますので、忌憚のないご意見等をいただければと思っています。

情報提供として資料を配布させていただきました。

下野市小中一貫教育推進協議会におきましては、小学校と中学校という既存の枠組みの中で、いかに充実した教育を行っていくのかとい

うことが、一つ大きな柱となってきます。もちろん、そういう子供たちの学びというのが、学校だけでは完結しないので、地域の様々な力、保護者の様々な力を借りて、教育を充実させる。そういうところの意見交換や情報共有をする協議会だと思っております。

話題提供という程度になってしまっていますが、昨年度末に、文部科学省が突如、「義務教育に関する意識に係る調査 概要・集計結果」を公表いたしました。これは、類似の調査から20年以上経っている中で、なぜこのタイミングでこのような調査をしたのか、それ自体が大変興味深いものなのですが、全国悉皆ではなくて、サンプル調査という中で、1枚めくっていただきますと、2ページ1番下にありますように、調査結果が社会全体の回答結果と異なる可能性がありますよと、というような断りはしてあるのですが、冒頭にありますように、「義務教育における課題を把握し、中央教育審議会等における議論や今後の政策立案に当たって参考にする」ことを目的にこのような調査が行われております。

報道等もされませんでしたので、次期学習指導要領の改訂などを見据えた議論をするに当たって、このようなサンプル調査を行っているのかなと思います。先生方向けの調査と子供たち向けの調査で、モニターとして、これは、モニター会社が保護者に言い換えるような調査と理解してよろしいかと思います。

繰り返しになりますが、サンプル数として多くありませんので、これを基に日本の義務教育がこうだとは言えないのですが、非常に興味深いデータが挙がってきているとは思いますが。

例えば3ページから4ページにかけては、調査のポイント、結果のポイントなどが挙げられています。1つ目の点は、基礎的・基本的な知識を身に付けておくことを大事にして指導に当たっている先生方が多いようです。

2つ目の点です。新たな指導方法を取り入れていくべきと考えている、一方で、所属する学校や教育委員会が新たな取組を後押しする雰囲気としては十分ではないという回答が半数以上です。下野市に関してはそういうことはないと思いますが、そういう状況が出ています。

子供たちの状況を見ますと、授業は友達と一緒に学ぶことができると楽しいと感じている。一方で、3割の生徒は授業が難しすぎると感じているであるとか。児童生徒の7割以上は、授業で学ぶことは将来役立つと感じている、6割以上の児童生徒は自分の周りの生活と結び付いていると感じているが、そのように感じている児童生徒が、学年が上がるにつれ少なくなる傾向にある。これについては、23ページにグラフを載せました。小学4年生から中学3年生です。同じようなところで言いますと、結び付きというものが薄れていくような傾向が見て取れる。そのような調査結果が出ているということが挙げられてお

ります。

28 ページですが、学校での勉強について、学年が上がるにつれて得意、やや得意と答える子供たちが減っている。特に、得意と答える子供が中学生になると減ってしまって、得意ではないと答える子供が優位に増えてしまっており、どちらでもないという数値はそれほど変わらないということが、挙げられていました。

もちろん、成績だけではないのですが、小中一貫教育推進協議会においては、小・中学校の学びの連続が話題となっていました。今までの取組の中で、下野市は違うような数値が出ていてもおかしくないと思います。現場の先生方は、下野市の子供たちは違うのではないかと、こういう点是一緒ではないかというようなことも、どこかの場面で話題共有ができたらいいと思います。そういった中で、小中一貫教育というものをいろいろな方法で考えていきたいということもございすし、小中一貫教育は学校だけのものではありません。小中一貫で育てたい力というのは、保護者、地域の皆さまの協力があることだと思います。国がなぜこういうことをやり出したのか、言い出したのかということも視野に置きながら、下野市での具体的な子供たちの学びの様子等を協議し、施策につなげていくという、そのようなことで進めていきたいと思います。

今年度、会長を精一杯努めますのでどうぞよろしくお願いいたします。

副会長あいさつ

(大塩副会長) 副会長を仰せつかりました大塩と申します。副会長の役目としては会長の補佐に当たる形でございますが、知識その他不勉強でございまして、どれだけお手伝いできるか分かりませんが、1 年間よろしくお願いいたします。

6 小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について

(小野瀬会長) 新たに委員に加わる方もいらっしゃいますので、まず、小中一貫教育推進協議会の開催趣旨について、事務局から説明をお願いします。

(土田補佐) [資料 2：下野市小中一貫教育推進協議会の開催趣旨（令和 6 年度）について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明について、ご質問等ありましたらお願いいたします。

(委員) 今、説明の中で、学校を中心としたものから、学校を核としたものにするというお話がありましたけれども、さらに細かく踏み込んだという意味合いが込められているような気がします。もう少し詳しく説明していただければ、よろしくお願いします。

(土田補佐) 現在進めております小中一貫教育ですが、市の方で大元の計画を出しております。事前にお配りした学校教育計画になりますが、そ

こで、大まかな枠を示し、実際の運営は、学校の方で事務局の学校を中心に進めていただいております。どうしても、小中一貫教育の取組となると学校を中心として、あるいは、学校だけの取組になりがちになってしまうのですが、その土地に生まれ育っていく子供たちを育てていく視点からすると、学校と地域が一体となって、小中一貫教育を行っていくものと、今後の推進の方向性を考えております。詳しい説明については、この後の報告のところで、事務局からお伝えしたいと思っています。今、学校中心で計画を立てていますが、そこにぜひ、地域の方のご意見も取り入れていきたい、そういった意味で、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思います。いまして、このような開催趣旨を設定させていただきました。

(小野瀬会長) 今後の報告、議事のところで、これまで学校が核となって小中一貫教育を進めてきた、そこに、より多くの地域の方の意見を反映するとか、具体的なやり方などについて、委員の方からご意見をいただけるのではないかと思います。具体的な取組と報告を聞いてからの方がよろしいかと思いますので、趣旨につきましてはよろしいでしょうか。

確認しますと、現状令和6年度ですから、令和4年度から始まっている小中一貫教育推進期が来年終わりを迎え、令和8年度からどのような展開をしていくのかというところです。その際、地域とともにある学校というようなキーワードを具体的に位置付けしていくことが、新たな展開とともに大切になってくる、それに関して委員の皆様から様々なご意見をいただけるとありがたいです。

7 報 告

(1) 本市の小中一貫教育について

(小野瀬会長) 続きまして、7の報告に参ります。「本市の小中一貫教育について」について、事務局から説明をお願いします。

(水本指導主事) [本市の小中一貫教育について説明]

(小野瀬会長) ただ今の説明について、確認、質問等ございましたらお願いいたします。

(委員)

(質疑なし)

(小野瀬会長) 7報告(1)につきましては締めまして次に進みたいと思います。

(2) 本年度の各中学校区における推進について

(小野瀬会長) 7報告(2)本年度の各中学校区における推進内容について、各中学校区の4人の先生方より報告をお願いいたします。

4つご報告がございしますが、4つすべての報告を聞いてから、最後に質問という流れで進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。昨年度の重点を中心にお話をいただきたいと思います。

南河内小中学校の海老原委員からお願いします。

- (海老原委員) [資料：南河内小中学校 小中一貫教育グランドデザイン、推進シートについて説明]
- (星野委員) [資料：南河内第二中学校区 小中一貫教育グランドデザイン、推進シートについて説明]
- (齋藤委員) [資料：石橋中学校区 小中一貫教育グランドデザイン、推進シートについて説明]
- (菊地委員) [資料：国分寺中学校区 小中一貫教育グランドデザイン、推進シートについて説明]
- (小野瀬会長) 各中学校区からの報告がありましたので、確認、ご質問、ご意見等はございますか。併せて、小学生、中学生がこのようなことがありました、というようなことがありましたらお願いします。
- (伊沢委員) 教育に対しては縦割りが充実していることが分かりました。
 学校の1クラスの人数が多いと思います。勉強に関する時間は、少ない人数の方が一人の先生が全体に目を配れる、行き届いた教育ができると聞いたことがあります、そうあってほしいと思います。
 自分自身の経験で、中学校の時に他の生徒から言われた言葉がショックで学校に行きたくなかったことがあります。いじめがあったら、第三者も交えて話をした方がよいと思います。どういうふうにしたらそうならないか話し合いができるクラス、学校づくりをしてほしいと思います。
 質問なのですが、CAN-Dリストと立腰がよく分からないのでお願いします。
- (海老原委員) CAN-Dリストは、英語を学習する上で、この学年でここまですることができるようになります、というリストであり、学年ごとに設定しています。それを小学校と中学校でもう一度整合性を図って作成し直すということです。
- (星野委員) 立腰というのは、よい姿勢を1分間、心を落ち着けて朝の1分間を過ごしてから読書をするなど、姿勢をよくすることです。
- (小野瀬会長) 1クラスの定員は国の法律でも決まっていますし、人数を減らすのは難しいと思いますが、小中一貫教育の中でいろいろな大人の方に関わっていただく、今後の方針とも関わると思うのですが、先生だけでなく保護者や地域の方々に関わっていただくことが大切だと思いますし、あるいは、中学校などでは、習熟度別で指導したり、従来のクラスを分けて少人数での指導をしたりと、そういった報告も昨年度までにはあったと思います。
 いじめの問題は、ご自身の経験から貴重なお話だったと思います。今後の小中一貫教育の枠にははまらないかもしれませんが、大人になっていじめなどの経験をどういうふう考えていくのか、人権とか個人情報問題があるので難しいところがありますが、例えば、児童・生徒指導において地域の方に体験談を話してもらったり、関わっても

らったりと、地域の関わりの中で小中一貫教育を進めていく、という示唆になるのかなと思っております。

少人数の指導やいじめの指導で、地域の力を借りていますということがあればご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。

(齋藤委員)

初めてこの協議会に参加させていただいて、初めに、大雑把な小中一貫教育の話を伺って、先生方も大変だと改めて思った次第です。様々なニュースでも先生方は大変だと言っています。

南河内小中学校について、伺います。こちらは唯一、敷地内で小中一貫教育がなされています。中1ギャップがよく言われますが、同じ敷地内で1年生から9年生までスムーズに流れていくので、中1ギャップはどうですか。

(海老原委員)

中1ギャップがあるかどうかというストレートな調査はしておりませんが、6年生と後期課程の生徒との関わりは多くあります。6年生だけ、7～9年生と同じ校舎に入っています。そのため、6年生は7年生の横の教室に1年間いることになります。6年から7年へのステップである中1ギャップはほぼ解消されていると思っています。ただ、完全なフラットはよくないと思っています。全くのフラットではなくて、一応発達段階で中学生になるという心構えの変化などはきちり残すようにしています。

(委員)

国中体操や二中体操はオリジナルの体操なのですか。

(委員)

はい。

(委員)

いいですね。小学校でも中学校でも同じようにやっているのですか。

(委員)

はい。

(仁平委員)

私は初めて参加させていただいています。自治会の代表という形で出席させていただいております。自治会の方に支部がありまして、それが統一されまして自治会連絡協議会が新しく設立されておりますが、農村地区と都市区とで都市間ギャップもあるし、地区ごとの世帯数も違うものですから、自治会が抱えている問題も違うのですね。ですから、正直言って自治会連絡協議会がまとまっていない、話がまとまらない、やはり都市間ギャップと世帯数ギャップがあつてなかなか問題の絞り込みができないというところがあります。地域と関わる、地域とともにある学校を目指すということがあると思うのですが、私は南河内小中学校区に住んでいるのですが、前は、学校を中心に、まさに学校を核としてということで、薬師寺小、吉田西小、吉田東小があつたのですが、ちょうど学校を中心に地域と子供たちと関わっていろいろな行事などをやってきたのですが、小中一貫校となってしまうので、逆に地域との関わりが薄くなってきているというのが実態だと思います。ただ、現実的には小中一貫校となっていますから、南河内小中学校を中心として触れ合わなくてはいけないというのがあ

るのですが、どうしても、そういった地域格差の問題がある。高齢者もそれをすごく危惧しておりまして、子供たちと何とか関わらなくてはいけないということで、この間もお祭りがあったのですが、子供たちにお囃子を教えようと、大人たちが中学生を中心に、お囃子を教えて、この間、初めて地域のお祭りの中で披露しました。そういうことで、子供たちとつながりができてよかったなというふうに思っています。廃校になった小学校で今週の日曜日に地域を挙げての吉田祭りというものがありました。子供たちと集まって盆踊りやお囃子を披露したり、いろいろなことを子供と関わりながらやっているというところがあります。国分寺地区と石橋地区は自治会とのつながりがどうなっているか分かりませんが、南河内地区は学校が廃校になってしまったので、余計、大人たち、高齢者の方は子供たちとの関わりが薄くなってしまったということは聞いています。そういうことを、南河内小中学校の校長先生はどう思われているのかお聞きしたいです。

(海老原委員) 薄くなった現実というのは具体的にどういうことですか。

(仁平委員) 例えば、学校を中心としていろいろなイベントをやっていたのですが、小中一貫校になってしまったので、そのようなイベントがなくなってしまったということです。お祭りは残っているのですが、以前は、学校が終わったときには草むしりをしたりみんなで集まったりして学校を中心にいろいろなコミュニティができていたのですが、地元の子供たちとの関わりが薄くなってきたということです。

(海老原委員) できるだけ、子供たちには、地域の人たちと関わってほしいと思っています。学校での PTA の除草作業を行ったりはしているのですが、よろしければ、学校での除草作業に、地域の方にお声掛けさせていただければと思いますし、地域のいろいろな行事も復活しているので、子供たちにはそういうところには出なさいと、生き物調査なども復活してきているので、行ってきなさいという話はしています。学校から、地域でこういうことができませんかというのは難しいところがあるので、学校に呼び掛けていただければと思います。逆に、子供たちに声を掛けると不審者と思われるのではないかと、お声掛けいただけない状況もあるので、そこは、遠慮無く、子供たちがよくないところがあれば注意してほしいですし、そういうところから、つながりをもっていければいいと思います。4校が閉じて1校になったので、地域とつながっていかねばならないということは、常々思っています。学校開放も行ったのですが、来ていただいた方は一握りしかいなくて、学校の方にも足を運んでいただきたいと思っていますし、地域と遠ざかろうとか拒否するとかそういうことはありません。

(仁平委員) どうしても、高齢の方は、子供のときから学校への思い入れがあったんです。それがなくなってしまって、小中一貫校になったことによって、どうしても、地域の方と子供との関わりが希薄になったという

感じはあるんです。お祭りなどでコミュニケーションをもつようにはしているのですが。

(小野瀬会長) 学校を核とした地域づくりというのも、委員がおっしゃるように、地域ごとのニーズであったり、抱えている課題、自治会格差というものもあり、それぞれお住まいの方のニーズであったり危機感というものも、情報を吸い上げてどう共有するのかというような、大事なご指摘だったと思います。先ほどのお話との関連もあると思いますが、先生方が大変な中でやっていただいている、また地域の課題もある、そういった中で、ここは教育委員会が中心となると思いますが、保護活動や伝統などについて、様々な形で当事者がコミュニケーションを図っていくことが大事になっていく、それが、子供の育ちであったり、地域の方の安心感にもつながる、そういう意味で、イベントや機会を捉えての保護活動抽出なども当然として出てくるのかなと思います。

一部、(1)に関わる部分も出てきていますけれども、各中学校区について、何かありますでしょうか。

(委員)

(なし)

(小野瀬会長) グランドデザインを確認したということによろしいでしょうか。それでは、8の議事(1)に進みます。

8 議 事

(1) 今後の推進について

(小野瀬会長) それでは議事に入ります。8の議事(1)は、今後の推進についてということです。先ほど、報告の(1)のところで、令和8年度以降の小中一貫教育の推進について、新たなものの策定についてご提案がありました。具体的には、資料5のところに、計画の全体像(案)が出ております。下野市の学校教育目標についてはこのまま変わらないということです。ただ、今後の小中一貫教育の方向性として、4のところ、学校運営協議会につきましては、すべて、配置していて様々な活動がされているので、「充実により」に修正したということ、その充実という意味で、まさに地域との関わりの中で小中一貫教育をどのように進めるかという方向性が確認されている、さらに具体的にそれを下ろすと、(2)(3)について、国際教育の推進であるとか、ふるさと学習であるとか、例えば、(3)の辺りは、地域の方とどのように関係性を深めていくのかということのも、一つの考え方になるのかと思っております。これについて、今までの取組の具体的なお話も踏まえながらご意見をいただければと思いますが、事務局から、(2)(3)について、こういうふうに決めましたというようなことはありますか。

(水本指導主事) (2)(3)というものが、各中学校区において、(1)から(4)の視点を基に進めていただいております、(1)と(4)につきましては小中一貫教育の根本の部分であり、特に(2)(3)につきまして

は、令和８年度から各中学校区の特徴を出しながら進めていくに当たって市全体の視点としてこのままでよろしいか、それとも他の視点にした方がよろしいか、地域の方のご意見もお聞きしながら考えていきたいと思っておりますので、様々な視点からご意見をいただけたらありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

(小野瀬会長) ありがとうございます。小中一貫ということで、例えば、(１) 特色のある教育活動の推進、先生方の協働、家庭教育との連携、家庭教育の推進というものが核になってくると思いますが、新たに、具体的にどう進めれば小中一貫教育がよりよいものになっていくか、逆に言うと、地域に住む方々の安全・安心、地域づくりにつながっていくかというところで、こういう視点を入れていくべきではないかというところで、ご意見がありましたらお願いします。

(菊地委員) (２)(３)と言われましたが、その前の１点目、地域とともにある学校を目指す展開と新たな取組のところで意見を言おうと思います。よろしいですか。

(小野瀬会長) はい。

(菊地委員) ざっくり言いますと、小中一貫教育は小と中で縦軸なわけですね。私も４月から来て推進している、充実しているなどと思って。学校運営協議会や地域との連携が横軸なわけですね。縦軸だけでも横軸だけでもだめなので、偏らず、それぞれの中学校区とか下野市の中でバランスよくやっていくことが必要ではないかと感じています。今が悪いというわけではないのですが、その辺が一つの視点。その軸があって、バランスだけじゃなくて、交わる部分がどうなのかという視点で考えると、グランドデザインの中で地域連携部会があります。これは一つの場合ですが、例としては、その地域連携部会の中に、学校の職員だけではなくて、地域の方々、運営協議会の委員さんなどに、スーパーバイザーとして入ってもらうなど、そういうのも一つかと思います。また、学校運営協議会が横軸だとしたら、小中の連携という意味の話合いでも、今、年に３、４回、学校運営協議会を各学校でやっていると思います。第二中学区で、小中合同で、お祭りなどのテーマをもってやっています。全部でなくても、一部、学校運営協議会も中学校区で合同でやって意見交換すると、小中一貫教育と繋がるのではないかと。今後の目指している取組ということでは、そういう方向も一つの例としてはあると思います。

(小野瀬会長) はい、ありがとうございます。あの大変重要な、的確なご意見だったと思います。縦軸と横軸が現状あるわけで、うまくやるともう少し縦と横が交わるのではないかと、そのような視点をどんどん出していくと、既存のものを活用するので、先生方の負担感にもあまりつながらないのではないかとという点でも重要なご指摘だったと思います。今後の進め方について、菊地委員のようなご発言も大歓迎ですので、ご

発言いただければと思います。いかがでしょうか。

(齋藤委員) (3)のふるさと学習の推進ということで、今現在は特別何かは行っていないのですか。

(小野瀬会長) 行っていないということはないと思います。

(齋藤委員) 先日、小中学校にお邪魔させていただいた時に、いちご農家さんが来ていちご狩りの企画を授業でやっていましたが、非常にいいことだと思いました。地域と関わりも今回の一つの目標なので、そういうことを学校の授業以外にどんどんやっていくといいと思いました。読み聞かせのボランティアをされている方が二中の学区内の小学校に行った時に、物語の中で藁が出てきたときに、藁というものが何からできるか知らない人が多かったらしいのです。農家さんでないと藁って何からできているか分からない、何が藁なのかさえも分からないというのが自分はとてもショックでして、そのようなことは知っていて当たり前だと思ったのですが、地域の方が学校に来て説明して、子供たちにとっては、大人が当たり前にしたことも教えてくれないと、授業ではこれは藁だって分からないと思います。ぜひ積極的に取り組んでいただきたいということと、(2)の外国語国際教育の推進ということで、英語が堪能な中学生を留学させるとか、そういう仕組みっていうのが今あるのですか。

(小野瀬会長) ありがとうございます。そういう共同学習や、派遣制度みたいなことについて、何か事務局からありますか。

(水本指導主事) はい、ありがとうございます。まずふるさと学習につきましては、ふくべ細工などの体験活動を市の方で進めております。そういった活動をされている地域の方に学校に来ていただいて、ふくべについて教えていただいたり、一緒にふくべ細工を作るやり方を教えていただいたりというような機会を設けております。また、下野市には薬師寺歴史館や風土記の丘資料館などの歴史的なことを学ぶ施設もありますので、総合的な学習の時間や社会科の時間などに社会科見学に入れる学校もたくさんあります。そういったところでふるさと学習を進めております。先ほどご質問がありました留学の制度などは、ただ今のところ市で留学制度というのがありませんので、各家庭の判断によることとなっております。ふるさと学習と外国語をコラボしたしもつけ未来学習という学習も進めており、「しもつけ未来学習」というテキストが市で作られております。小学1年生から中学校3年生までずっと続けて使えるテキストになっており、ふるさとについて学んでいけるような教材になっております。そちらの方を継続して、今後も学校の方で使っていただきたいと考えております。

(小野瀬会長) ありがとうございます。おっしゃるように、外国語を使うということは、そのツールを何に使うというところで、いろいろと機会を作るというのは、やはり大事なご指摘かと思いました。小中一貫教育が何

のためにあるのかというと、子供たちのよりよい育ち、学びのためにやるわけで、では、どういう未来像を描くのかというところがやっぱり大事になってくると思います。そういう未来像を描くために、計画が位置付くのだと思いました。ありがとうございます。

(野口委員)

私は初めて今年から委員になったのですが、先生の場合は、幼保小というものがあって学校と共有して連携を取ってやっています。今回、その後にこういうふうに小中一貫でこの後の繋がりがあるということが分かって、繋がっていくことは大切なことだと思いました。地域のことで、しば保育園は地域の交流が結構ありまして、国分寺東小学校の町探検で卒園した子が来てくれて、懐かしいと言って、自分の時こうだったという話をして喜んで帰ってくれます。去年、国分寺中学校二年生の職場体験の際に、卒園した男の子が保育士になりたいと言って来てくれて、私も含めその時に園にいた職員がいて、とても嬉しくて、「保育士さんになるのを待っているよ、来てね。」と話しました。また、近くの北桜高校のインターンでも、卒園生が来てくれて、そういう地域の繋がりがあいつも嬉しいと思っていたので、一言言わせていただこうと思っていました。国分寺特別支援学校高等部の生徒との交流もあり、お花を作ると持って来てくれたり、太鼓をやって子供たちに見せてくれたりと、地域と一緒にやれるというのはいいことだと思っています。小学校、中学校の先生たちに本当にお世話になり、ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

(小野瀬会長)

ありがとうございました。単なる本当にあの教育機関同士というか、連携ということではなくて、まさに保育園が地域にあるということである、卒業生卒園生がここに帰って学ぶということであれば、本当に縦でもあり横でもあるみたいな、そういうような存在として、保育園だったり、幼稚園だったり認定こども園だったり、地域奉公のような話になってくるのかなと。大事な存在で、ある意味子供たちの育ちと一緒に見ていく大事なパートナーだということを改めて伺ったというふうに思います。ありがとうございました。

(川井委員)

私は今年初めてこの会に参加しました。国分寺中学校で教員をやっていたものですから、小中一貫教育のプロジェクトに関して、正直言って、教職員の負担増、働き方も負担になっていた時もありました。この会に参加させていただいて、私は運営協議会も携わっていたのですが、地域の方をなんとか巻き込んで、お世話になりながら、小・中学校の子供たちと一緒に何かできないかとか、特別教室にクーラーを設置できないかとか、いろいろ話しながらやってきました。校長先生もおっしゃっていたのですが、中学校運営協議会が小学校の運営協議会と一緒に話し合う機会もあった方がいいと思います。例えば、中学生はだいたい自転車通学、小学生は徒歩通学やバス通学であり、登下校の安全や危険マップなどをもう一度見直すことなどを考えると、安

全は一緒に考えた方が当然よいと思います。そんな話がいろいろ出てきて、そこで接点をもっと広げるとよいと思います。

(2) の外国語国際教育は、なぜ出てきたのですか。これは外国語教員にとってはすごく負担になると思います。私たち英語科の教員がやらなきゃならないのかとなると思うので、市の方からなぜこれが特別に出てきているのかなと思いました。

地域それぞれ、4つの中学校区によって、先ほどおっしゃったように全然違うと思うので、一つの方向性、同じ方向性はあっていいと思うのですけれども、すべて同じであるのは無理だと思うので、こんなところがこの地域ではあるのだよという話が聞ける、話ができる、そんな場がいいかなと思います。

それからもう一つ、中一ギャップという言葉が、ある時期、日本全国で出てきた時があったのですが、私から言わせれば、中一リセットの方が結構大切です。小学校時代に迷惑を掛けていた子供が中学校に来るといい意味で変わります。全く違う子供を何人も見てきました。そういうことを考えると、小学校時代に失敗してしまったり、特に発達障害の子も増えているので、そういう子供がリセットするのもとても重要です。ですから、さっき南河内小中学校で、ギャップだけじゃなくて、中学一年生になったんだぞというところを大切にしたいっておっしゃったのですが、そのとおりだと思います。

(小野瀬会長) ありがとうございます。一緒にずっと引きずるのではなくて、それぞれ連続するところは連続して、発達段階内でリセットして頑張ろうというようなところをもたせるということもやっぱり大事な視点であると思いますし、それぞれ地域によって違う、運営協議会で全く一緒のものを目指そうというのではなく、それぞれの地域の実状や、当事者意識の違い等によって、違うものができている。そういう共通のいいものがある、こういうところは違う、みたいところもこういう場で共有できればと思います。外国語国際教育につきましては、事務局の宿題かということもございますが、何でということを確認に丁寧にしていかなくてはいけないのかなということのご意見ということで、事務局の方からよろしくお願いします。

(須藤委員) 私も最初で、色々考えながら聞いていました。私は、古山小学校の学校の運営協議会の方でずっとやってきたのですが、この地域とともにある学校というところを、自分なりに一番考えながら、この学校運営協議会に携わってきていて、それと同時に古山小学校下古山自治会というところなのですが、その育成会が子供の数は多いのですけれども、保護者たちの協力を得られずにやむなく解散してしまったということがありました。その代わりに、古山こどもクラブというものを、地元の人が立ち上げてまして、その古山こどもクラブと、下古山自治会と、学校運営協議会の賛同を得て、今年で二年目ですが、夏祭りとい

うものを古山小学校の校庭で開催しました。今年が二年目で児童数は470人ぐらいなのですが、350人ちょっとぐらい当日集まっていたいて、回覧ですとか、学校運営協議会の賛同もいただいたので、児童一人一人に配布することもできて、そこにビンゴカードの引換券も付けて、当日は、学校の校庭で、昔の縁日みたいな感じで、ヨーヨー釣りだったり、輪投げだったり、スーパーボールすくいだったりとか、かき氷だったりとかもあるんですけども。こども神輿体験もやって、二年間やって、反省しなくてはいけない点もあったのですけれども、進めてきてよかったと思うところがとても大きくて、また来年もやろうと思っています。今日、初めてここに来させていただいて、この地域とともにある学校というのを見た時に、こういう活動も地域とともにある学校の一つなのかなと思いました。でも、この小中一貫というワードとなってくると、今回一つ思ったのが、今回は石橋中学校の柔道部とか一部野球部とかが、縁日の手伝いに来てくれたりというつながりもあって、すごく賑やかにできたんです。そういった取組を年一回だけではなくて、もう少し、ただ保護者の負担にならないようにやっていかないと、また、子供会育成会の二の舞となってしまうと思いますので、そういったバランスを保ちながらできたらと思っています。話を聞かせていただいて、地域側から、自治体側から学校にアプローチするのが多分一番いいと思っています。当然、校長先生や教頭先生にもやってくださいという話はしてもらえんですけども、本当はどう思っているのかなというのが気になって、あまりやりすぎてしまうと、学校側の負担になったら嫌ですし、その辺を学校側に聞いてみたいなのことがあります。言える、言えないはあると思いますけど。地域とともにある学校の具体的な理想モデルというか、言える範囲で、よければ聞きたいというのはあります。

(小野瀬会長)

ありがとうございます。本当に大事な指摘だと思います。地域とともにある学校であるとか、当事者がいるわけで、学校の先生、地域の方もそうであると思いますが、それぞれの負担感というものを細やかに気遣いながらも進めていこうというところがあると思いました。その中で、方向性是一緒なんだけど、具体的にやるときに、本当はどう思っているのかみたいところで、それぞれの思いであるとか考えであるとかを擦り合わせるようなステップが必要なのだということを改めて思いました。それが、従来の枠組みとか学校運営協議会というもののなかどうかも含めて、お話ししないといけないと思います。実際のところどう思っているかという、校長先生からのこの場での発言も難しいと思いますが、そういう場というところも意識して作っていかないとだめなのだろうなと思います。今、お祭りの話がすてきな、すばらしいなと思いました。子供たちは、小学生くらいはお祭りを楽しんで、ただ中学生になると運営側に回って、楽しみを一緒に作る、

消費者と生産者という言い方が分かりませんが、楽しむ側から楽しませる側になるのはすごい成長だと思いますし、そういう貴重な場を作っていただいて、本当に素晴らしいと思います。学校側も子供を育てようというところは異論がないと思います。ただ負担感があるので、そこをどうしていくかということ、計画を進めながら考えていくべきなのかなというところで、貴重な論点のお話だったかと思います。

(小野瀬会長) 新井委員何かご意見いかがですか。

(新井委員) 私も初めて参加させていただいて、それぞれの中学校区がしっかりできていて、教育委員会も含めて、組織的に小中一貫教育が行われているのだなという印象があります。また先ほど意見がありましたけれども、それぞれ地域の方々と、学校と、でもやはり負担感があると思いますので、成果が出ているというのは指標からも明らかだと思うので、持続可能な形でのところをしっかりと擦り合わせながらやっていただければいいのかなと思います。1つは、その中でも指標の低い資料4の7番、8番の指標、「地域の行事に参加していますか」というのと、「地域のために何をすべきかを考えることはありますか」ということで、計画の(3)ふるさと学習の推進というのが挙げられているのだと思うのですが、やはり、郷土への理解というところが、進んでいかないと今後は、郷土を含めて大学も含めて、外に出て戻ってきてくれるUターン人材が、少なくなってくると消滅都市とか、下野市がどうなっていくのかというところがあると思いますので、そういうところの将来や先々を見据えた教育を考えていかななくてはならないかなと思います。

(小野瀬会長) ご意見ありがとうございました。委員の言うとおりに、本当に次世代を育てていかないと日本が・・・という全体的話かもしれませんが、コミュニティの存続の問題となっていく、そういう危機感を皆共有していると思いますので、そういったところの危機感を前向きに教育するためにはどうしたらいいのかという、委員からのご指摘だったかと思います。

ということで、全体像をご覧いただいた中で、こういうことが大事なのではないかと、各方面からご意見をいただけたのではないかと思います。この場では、本計画についてご意見をいただいて、たたき台を作ればと思います。

さらにもう一個事務局からできればと言われていたことが、令和8年度からの新たな計画について、どれくらいの期間を設けることが適切だろうかという、時間があれば意見を、という司会進行への依頼がありました。今日お話いただいて、あらためて全体像を皆さんに共有いただいたと思います。ご自身がそれぞれお持ち帰りいただいて、全体像の検討も、本年度を振り返るとともに、またご意見をいただくと

いう中で、次の令和8年度からどれくらいの期間次のステップとして、設けるのが適切なのか、こういった考えがあるのではないかということについて、第2回目のところで、委員からご意見を承るという形にしたいと思います。

そして、今後の推進については、この資料5も含めて、ご意見をいただいたと思います。それをもとに、今年度の第2回目においてさらに議論を深めるという形にしたいと思いますが、副会長いかがですか。

(大塩副会長)

時間がないので端的に話させていただきたいと思います。1つ目は、先ほど川井委員から(2)についてお話がありました。(3)のふるさと学習の推進というのは、(4)とだぶるような気がします。「地域との連携」というところと、「ふるさと学習の推進」というところが関係する気がするのです。

2つ目は、私自治会とも関係しているので、自治会の話も随分出ましたので、ああそうだなあ、うちの方のお祭りもようやくできたということで、本当にささやかなお祭りをやらせていただきました。その際に、地域と学校をより近付けてみようということで、大変失礼だったのですけれども、校長先生とPTA会長さんをお呼びして、挨拶をいただきました。子供たちから、「ああ、校長先生」なんていう話も出ました。

3つ目は、小中一貫教育というこの推進協議会での検討は、元々「小」「中」というように小学校、中学校という言葉になっていますけれども、やはり子供がどういうふうに成長していくか、なだらかに子供たちが成長していくように、スムーズに無理なく成長していくように、というのが裏にあるのではないかと思います。そうしますと、当然幼稚園の方もおられますし、高校の方もおられますし、大変すばらしい協議会だなと思ったわけですが、ただ1つ、この点は考えておかななくてはならないなと思ったのが、小野瀬会長から出されたこの資料の28ページの、先ほど中1ギャップなんて言われていましたが、このグラフだけが、違う形態を示しているのです。それ以外はなだらかに動いているのですが、これだけが違う、だから小中一貫という中に考えていかなくてはならないのではないかと、含まれているのではないかと思います。以上です。

(小野瀬会長)

ありがとうございました。委員の皆様にも初めてで、じゃあ次こういう意見を言ってみようかなということがあったかと思いますし、宿題もあり、事務局の方にも委員のご発言、ご質問、ご意見があったと思いますので、まとめていただければと思います。

そうしましたら、今後の推進について今回は資料5を確認しておいていただいたということで、議事については果たしたという形でよろしいでしょうか。最後副会長からも総括的なお話がございましたの

で、議事の（１）については、了解、確認したということで進めさせていただきたいと思います。

（２）その他

（小野瀬会長） （２）のその他につきましては、特にこちらからの用意はないのですが、委員の皆様からここで何かということがあればお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（伊沢委員） はい。地域の連携のことで、石橋地区の子供会がなくなって、負担にはなっていたというところがあったのですが、何事も役を受けるということは、全然負担がないようにというのは絶対ないと思うので、やる側がやはり楽しくやっていかなくてはならないと思うので、石橋地区の子供会も、また復活してもらえたらいいなと思っているのですが、楽しいものにしてほしいというのはあります。あと、国分寺西小学校が、廃校になってものすごく寂しいことなのですが、廃校になる前は運動会に地域の人に来てもらっていました。また、盆踊りというか、お囃子会の人たちに来てもらって、子供たちにも太鼓とかを叩いてもらって、一緒に教わりながら、実際当日は子供がやるということはやっていました。本当に、小学校がなくなったということは地域の人たちにはすごく寂しいことで、子供の声が聞こえないということで、吉田地区もなくなって本当に寂しいのじゃないかと思うので、やはり、その学校ではできないとしても、中学校区のところの運動会なり何かお祭りの授業をやってもらえたら嬉しいです。

（小野瀬会長） ありがとうございます。なかなか学校がなくなってしまうと寂しいという、大事なご指摘だったと思います。地域に子供の声が聞こえたりというところをいかにやっていくかということで、大切な視点だったと思います。

それでは、つたない司会で申し訳ありませんでしたが、私が担当するレジュメの６、７、８全て終了ということで、委員の皆様のご協力、誠にありがとうございました。

９ 事務連絡

１０ 閉 会